

白杵税務署長賞

誇れる未来へ

大分県立白杵高等学校 三年

山田 眞実

私は今までの人生、税金というものの存在をあまり意識したことがなかった。しかし、自分で買物をする際、「この値段なら買えるだろう」という思いを裏切られることが多々あり、自分の甘さに気付かされる。消費税というものが、思考から欠け落ちているのだ。

社会人となればどうなのだろうか。きつと毎月の給料から、様々な税金が引かれてしまうため、意識せずにはいられないだろう。例えば、住民税や所得税、毎月の電気代や水道代などの光熱費、食費代等全てにおいて消費税が加わっているのだ。まさに、所得の少ない人にとっては「血税」と言わざるをえないだろう。き

っと私自身も近い将来、社会人となりその現実を目の当たりにすることだろう。それを思うと税金は適切に大切に使用してもらいたいと思う。例えば、今私たちが受けている教育関係や、社会福祉などを更に重視してほしい。

白杵市はどのようなのだろうか。文化や歴史を大切に継承している。食の大切さを土作りから実践し、ほんまもん野菜としてブランド化に成功。それだけではなく、学校給食に直接取り入れてくれている。どれを取っても、自慢できる税の使い道であり、自治体ではないだろうか。このような誇らしい白杵市で生まれ育った事を、普段はほとんど意識していなかった私である。これを機会に他県との比較も兼ねて、地元の良さを実感していきたい。

つい最近世間を賑わせた他県のトップの不祥事や国会議員の用途不明な政治資金流用事件など、税に関する国民の関心は益々強まるばかりである。国民の上に立つ人ほど正しい

倫理観や、使命感は必然であろう。私たちにはその人達を選挙によって選ばなければならぬ責任があるのだ。来年から選挙権を持つようになり、自分に課せられた役目を果たすためにはどうするべきだろうか。ま

も関心を持つことが大事だと思う。

四月に起きた熊本や大分での地震被害によって私たちの暮らしの安心安全が大きく脅かされた。これからも、南海トラフ巨大地震の発生が危惧されている。私たちの白杵市も災害に強い町づくりを早急に進めてもらいたい。例えば、私の母校である白杵小学校移転問題。危険な場所であるということ、は周知の事実なので、引き続き市民全体で議論していくべきだと思う。道路や建物だけでなく人にも等しく正しく税金を投入してもらいたいと切に願う。